



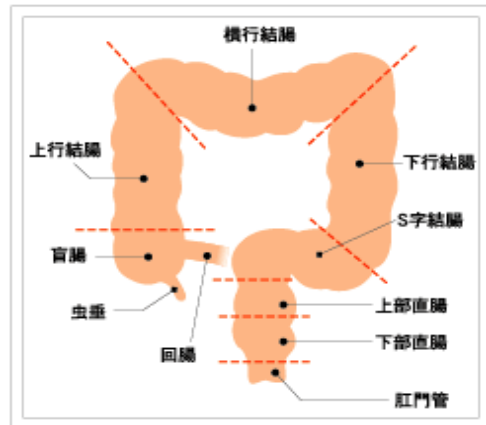
2016

4月の健康コラム

Vo1. 85

腸の病気

腸には、**がん・ポリープ(腫瘍性腸疾患)**がよくできることが知られていますが、それ以外にも**潰瘍(キズ)・炎症(ただれ)を起こす病気(炎症性腸疾患)**、**動きの異常・痛みの過敏を起こす病気(機能性腸疾患)**と、大別して3種類の病気がありますが、近年その全てが増加しています。



がん・ポリープ(腫瘍性腸疾患)のうち、大腸がんは、早期に発見して治療すればほぼ治癒が可能です。

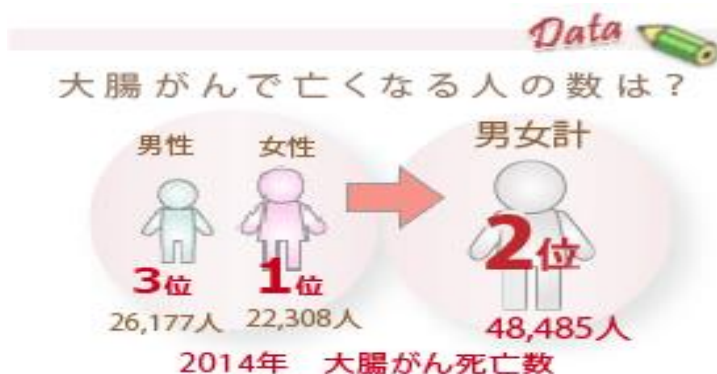
大腸がんの一次検診では、一般的に便潜血検査が行われています。「有効性評価に基づく大腸がん検診ガイドライン」(2005年)では、「対象とする集団の大腸がんによる死亡率を減少させる」という大腸がん検診の目的に合致すると科学的に証明され、「実施することをすすめる」と判定されたのは「便潜血検査(免疫法または化学法)」だけです。

その結果、一次検診で異常ありと判定されると精密検査(二次検診)を受けることになります。

日本対がん協会が2010年度に全国の支部で行った大腸がん検診の結果では、受診者数は224万3133人、うち精密検査が必要と判定された人(要精検者)は13万6464人(要精検率6.1%)、この中で精密検査を実際に受診した人(精検受診者)は8万8311人(精検受診率68.7%)、この検診を通してがんを発見された人の数は3353人、その割合は0.16%でした。

大腸がん検診は大腸がんを見つけるためのものですが、それ以外にも大腸ポリープ(良性腫瘍)を発見して治療に結びつけることができます。

なお精密検査としては、大腸内視鏡検査が実施されることが多く、以前は大変な検査でしたが、今は内視鏡自体が細く、柔らかくなっており、また検査の前に眠くなる薬を使ってもらえば、かなり楽にできるようになっています。



潰瘍(キズ)・炎症(ただれ)を起こす病気(炎症性腸疾患)には、原因が明らかな急性の腸炎と原因不明の慢性の腸炎があります。

原因が明らかな急性の腸炎ではウイルスや細菌によるものとしてはノロウイルスやカンピロバクターによるものがよく知られていますが、最近では痛み止め、風邪薬、アスピリン、抗生物質など、薬による腸炎が増えています。

また厚生労働省指定の難治性疾患である潰瘍性大腸炎やクローン病は増加の一途を辿り、現在患者数は15万人になっています。

なぜこの難治性疾患が増えてきたかは正確には分かっていませんが、食生活の欧米化により、腸内細菌が変化したこと、腸粘膜の免疫機能の変化などが考えられています。この難病は原因がひとつではないために「原因不明」といわれますが、この病気が起こる仕組みはどんどん分かってきています。症状の主体が免疫の過剰反応によることが分かったおかげで、過剰な免疫反応を抑える新しい治療薬「抗TNF- α 抗体」が開発され、その効果は劇的で、病気の経過を大きく変えてしまうのではないかと注目されています。

動きの異常・痛みの過敏を起こす病気(機能性腸疾患)である過敏性腸症候群は、下痢・便秘などの便通の異常が慢性的に起こり、腹痛、腹部不快感を感じつつも、排便すると良くなり、病院に行って血液検査、便の検査、大腸内視鏡検査を受けても正常なため、精神的ものと考えられてきました。

日本の推定患者数が1300万人ともいわれながら、患者さんの多くは病院に通っておらず、自分で悩んでいるという病気でした。

しかしながら、最近の腸の研究の進歩により、この病気がおこる仕組みもある程度分かってきました。

その結果、過敏性腸症候群は決して精神的なものではなく、食中毒の原因であるカンピロバクターなどの細菌に感染した後、残った軽度の免疫の異常で起こるのではないかと考えられるようになってきています。

また腸に多いホルモン、例えばセロトニンの異常ではないかと考えられ、セロトニンを腸が受け取る場所をブロックする新しい薬が開発されました。

腸の新しい検査法として、カプセル内視鏡という検査が多くの病院で行われるようになってきました。これは500円玉ほどの長さのカプセルを飲んで普通の生活をしていただき、8時間後に回収するもので、大腸内視鏡に比べて精度は落ちますが、病気が小腸にある場合には大変有効な検査です。

また最近では、小腸の内視鏡検査ができるようになりました。これまで小腸には病気がほとんどないと考えられてきましたが、内視鏡が開発され、腸全部が観察できるようになった途端に、小腸に次々病気が見つかっています。原因不明の貧血の患者さん、血液の付いた便が出るのにどこから出ているかわからない患者さん、腸閉塞をたびたび起こす患者さんなどは、小腸の内視鏡検査が必要とされています。その他、CTスキャンを使ったバーチャル内視鏡やMRIを使った新しい腸の検査も開発されています。

